

平成 18 年第 4 回定例会議決結果

| 議 案 | 付託 委員会 | 本会議 の結果 | 市 政 12 | 市 フ 7 | 公 明 5 | 共 産 3 | 生 ネ 1 | 元 ク 1 |
|-----|-----------|------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|-----|-----------|------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

★ 主な議案（他に、承認 1 件）

| | | | | | | | | |
|--|------|----|---|---|---|---|---|---|
| 東京都後期高齢者医療広域連合の設立について | 厚生経済 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 二枚橋衛生組合規約の一部を改正する規約 | 建設環境 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 多摩川衛生組合の共同処理するごみ処理区域の変更及び地方自治法の一部改正に伴う多摩川衛生組合規約の変更について | 建設環境 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 東京たま広域資源循環組合規約の変更について | 建設環境 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市副市長の定数を定める条例 | 総務 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市長期継続契約に関する条例 | 総務 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 地方自治法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例 | 総務 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市手数料条例の一部を改正する条例 | 総務 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市体育施設条例の一部を改正する条例 | 文教 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市住民基本台帳カードの利用に関する条例 | 厚生経済 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市市民会館条例の一部を改正する条例 | 厚生経済 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市下水道条例の一部を改正する条例 | 建設環境 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 府中市地域まちづくり条例の一部を改正する条例 | 建設環境 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

★ 主な陳情・請願（他に、継続審査案件 5 件）

| | | | | | | | | |
|---|------|----|---|---|---|---|---|---|
| 南武線新駅設置に伴う周辺道路整備等に関する陳情 ※ | 鉄道対策 | 継続 | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| 療養病床の廃止・削減計画の凍結と介護保険事業等の充実等を求める陳情 | 厚生経済 | | | | | | | |
| 市議会における情報公開の活性化に関する陳情 | 総務 | 継続 | △ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 保育所入所待ち児童への緊急措置と未就学児童に係わる市政の各担当部署の連携についての陳情 | 文教 | 継続 | × | △ | △ | △ | △ | △ |
| 一時保育事業所への補助金増額についての陳情 | 文教 | 継続 | △ | △ | △ | △ | △ | △ |

※ 新駅予定地西側の府中崖線部分に道路を新設して欲しいという内容の陳情。道路設置は 5000 人を超える地元住民の声である一方、府中崖線は残された貴重な自然で、市としても「崖線の保全」を施策としており、意見が分かれた。結果は継続審議となり、松村・手塚両議員が採択を主張した。

府中市議会議員・府中の元氣

杉村康之



ご意見ご声援をよろしくお願いします！

事務所◆府中市栄町 2-14-21-101

TEL◆042-335-0097 / FAX◆042-361-9856

Email◆sugimura@sea.sannet.ne.jp

URL◆http://www.fuchu21.gn.to

郵便振替◆00150-1-102251(フリーダムネット)

銀行口座◆みずほ銀行府中支店 貯 4572242



府中一新、日本一新。

フリーダムネット

No.23 2007.1

<12 月議会報告>

**教育委員に地域・親の代表を
府中ブランドは戦略的に**

民主党は、議会のインターネット放映を推進します！

前回、前々回と継続審査となった議会のインターネット動画配信を求める陳情と同趣旨の陳情が新たに出されました。が、今回も、市政会、公明党が賛成せず、継続審査となりました。

①発言をしない議員にとって不公平になる

②年間 30 日ほどの本会議のために必要があるのか

という前回の理由に加えて、今回の珍理由は、

③市が情報公開をやってるから、議会は急ぐことはない、

というもの。市の情報公開と議会のそれが別物であるのは、言うまでもありません。陳情者に対する質問がまたあきれたものでした。

「議会の情報を知りたいというが、それを知って何をしたいのか？」

余計なお世話というものです。想定外の質問に陳情者も困ったことでしょう。こんな議会のやり取りを、ぜひインターネットでご覧頂きたいと思います。

発行所：市民フォーラム 〒183-8703 府中市宮西町 2-24

教育委員に地域・親の代表を

杉村 教育委員会制度の特性であるレイマンコントロールとは？

学校教育部長 レイマンは教育の専門家ではないという意味。教育の専門家でない一般の市民が、教育の専門家や公務員で構成されている教育委員会の事務局を指揮監督するしくみをレイマンコントロールと呼ぶ。

杉村 地教行法には「委員のうちに保護者である者が含まれるよう努めなければならない」とあるが、市の教委委員には「保護者」にあたる方がいるか？

学校教育部長 この規定は努力義務とされる。現在の委員にはいない。

杉村 市長は教育委員を任命するにあたり、レイマンコントロールをどのように考慮したか？

市長 幅広く一般の住民の方を教育委員に選任することで、考慮している。

杉村 それではレイマンはどなたか？ 何人いるか？

学校教育部長 教育長以外はレイマンになるものと思われる。

杉村 有村委員、久芳委員も含め 4 人がレイマンとのことだが、私は、教育長と有村先生、久芳先生の、少なくとも 3 人は教育の専門家だと思う。
教育委員には、少なくともレイマンを 3 人、保護者が 1 人は含まれるようにしていただきたい。

地域・親の声を反映した教育委員会を

私は、これまでコミュニティスクール、セカンドスクール、授業内容の情報公開、教育委員会会議録のホームページ掲載、などを提案してきましたが、どれも「教育プラン21」で触れられていながら、積極的な取り組みが見られません。府中の教育は非常に優れた面がありますが、このような地域や親の視点に立った施策に消極的なところがあります。

その原因として私が考えたのは、教育の専門家が多い現在の教育委員の構成です。答弁にあるように、そもそも教育委員会制度は、教育の専門家ではない地域住民が、教育の専門家をコントロールすることで、地域や親の声と専門性を調和させるための制度です。しかし、これまでの委員構成は教育の専門家が 3 人、学校医が 1 人、「保護者」ではない地域の方が 1 人で、レイマンコントロールがされているとは思えません。

レイマンコントロールを可能とするには、少なくとも 3 人がレイマンで、「保護者」が 1 人は含まれなければならないと、私は考えます。

府中ブランドを形にするために

杉村 2 年前に府中ブランドについて質問したが、その後、具体的に府中ブランドと考えてきたものは？ またブランド確立に向けての具体的な動きは？

総務部長 自然環境の美しさ、長い歴史と伝統、都市基盤整備の充実など。さらに具体的には、けやきフェスタ、ウィーンフェスティバル、観光情報センター、リサイクルプラザ、水と緑のネットワークなど。

具体的な動きについては、博報堂の「ブランディングスクール」に 3 名の職員を派遣した。また、観光都市府中のブランド化を目指すため、観光担当市政ディレクターを選任するとともに、府中観光協会が推奨品制度の検討を進めている。

杉村 具体的な動きを聞くと観光や特産品に特化しているような印象を受ける。ブランド確立のため組織上の核となるのは、企画課か経済観光課か。

総務部長 観光や特産品に特化するというのではなく、これらもブランドの一環として位置づけている。

府中ブランドを確立するためにはそれぞれの分野で本市独自の個性を引き立たせ、発信する必要があるので、新しい組織を設置はしないが、全体として美しい風格のあるまちづくりを目指した運営ができますよう企画課が調整してまいります。

ブランドづくりは戦略的に

平成 16 年に、市長選で公約とされていた「府中ブランド」とは何か、を市長に聞きました。その時の答えは抽象的でしたが、選挙直後でもあり、とりあえず承っておきました。その後 2 年が過ぎ、どの程度具体化されているかを今回聞きました。

答弁を聞く限り、具体的に組織として動いているのは観光だけのようです。「府中ブランド」が府中の名産品、観光に矮小化されないか、懸念が残ります。観光はブランドの一つとして非常に重要なテーマですが、組織全体を見渡すところにブランド推進の核をおき、戦略的にブランドづくりを目指すべきと考えます。

今後、地方分権の進展に伴い、自治体間競争が激しくなるでしょう。その中で、日本一のまちづくりに向け、市民がブランドを意識し、一定の価値認識を共有することは、大きな力になるはずです。

